

願成寺報

令和三年九月十三日

〒四四〇・〇八二二 豊橋市東新町二十八番地

☎ 〇五三二・五二・九六〇一

■ 秋季彼岸・永代経《中止》のご案内

コロナ禍が収まらず緊急事態宣言が延長されました。宣言の趣旨を尊重し、秋の法会を中止します。

亡き人や共に生きる仲間の姿に、

自分の在り方を問い直す大切な機縁を失うのは、

大変残念ですが、仕方ありません。

災禍は、福に転じる材料ともなり得ます。

皆様には、お仏壇などを整え直して、

心身健やかに過ごして頂きますよう、

念じております。



ベキの壁

浄土にも壁（境界）があるのか：などと考えていたら、気がつきました。壁は自分の周りに自分で張りめぐらしたものでした。

世界や、自分に対しても「こうあるベキだ」というベキの壁。

その壁のせいで孤独になっていく、そんな事があるようです。

人間は煩悩の無明の中で善悪にこだわる生物だと教えられます。

例えば、野生の弱肉強食について、殺し合いと受け取り、悪と断じます。

生かし合いと捉えれば善となるのですが、弱者に感情移入して出来ない。

もともと、野生に善悪を持ち込む方に無理があり、間違っています。

神ではない人間の考える善悪は、都合の良し悪しと関係していますが、

全ての状況に合う恒久普遍的な善などある筈がない。

だから善をたてて悪を斬っていくと必ず孤独になります。

その刃を自分に向けた場合は絶望しかありません。

善悪にこだわった場合、人間は悪を生きるしかありません。

その悪を隠そうとすれば、孤独が深まります。

こだわりを止めることも出来ないのだから、ただ嘆くしかないとなります。

この時「その嘆きは其方だけのものではない」の声を聞いたらどうでしょう。

それは壁の外から聞こえる筈です。

他の壁の中にも、その声を聞くものがある筈です。

歓喜のなかで壁はつながり、孤独が解消します。

壁を崩すことは出来ないけれど、歓喜と慙愧の脈やかな生活が始まります。

他力ノ信心ウル人ヲ ウヤマヒオホキニヨロコベバ

スナハチワガ親友ソト 教主世尊ハホメタマフ

《正像末法和讃・親鸞聖人》

九月 **日

十九日

二十日

新型コロナウイルス
感染防止の為
法会を中止します

餅つき・草取り会 中止

法要のみ

法要・法話

お斎（昼食） ↓ 応相談

法要・法話

法話 浄泉寺（岡崎市）

住職 戸田恵信師

● 阿弥陀経ノート③・正宗分・讚極樂・略讚依正

書き直しを恐れず、今、思い浮かぶところを書き留める

爾時、仏、長老舍利弗に告げたまわく、「是より西方、十万億の仏土を過ぎて世界あり、名づけて極樂と曰う。その土に仏有す、阿弥陀と号す。今現に在して説法したまう。

舍利弗、彼の土を何が故ぞ名づけて極樂と為す。その国の衆生は、衆の苦あること無く、但諸の樂を受く。故に極樂と名づく。

また舍利弗よ、極樂国土には七重の欄楯・七重の羅網・七重の行樹あり。皆これ四宝をもつて、周布し圍繞せり。この故に彼の国を名づけて極樂という。

〈仏説阿弥陀経・書き下し〉

・西方 方位磁石の西ではなく、例えば、太陽が向かう方向。衆生の目指すべき方向。時の流れ(出来事が当来して)来る方向か。数限りない仏土に励まされ導かれてたどり着く先。

・十万億仏土 仏土とは、私を励まし導こうとする主体とその有様。どんな時でも、幾重にも数限りなく私を囲んでいる。

・阿弥陀仏 今、此処、私に、いのちの真実を届けようとするはたらき。阿弥陀仏の浄土の別名(鳩摩羅什の造語か)。煩惱で造り出す苦のない世界。人間の描く理想とは隔絶した世界。

・欄楯 装飾を施した欄干(柵)塀。内外を隔絶し安全を担保するか。

・羅網 宝珠や鈴で飾った網(天蓋)。安心の音色で危機を予防するか。

・行樹 宝樹の並木。必ず実る充実した時間、成長の表現か。

・四宝 金、銀、瑠璃、玻璃。離執一如の徳「常樂我淨」の表現か。

・周布圍繞 取り囲んでいること。

・理知の限界

ビッグバン(宇宙開闢)以前とか、宇宙の果ての先とか、ブラックホールの内部とか、想像はできても観測しえない事がある。物理学には不確定性原理があり、科学は理知の限界を知っている。

極樂は、理知が描き出す空理空論の理想の世界ではない。逆に理知の働きを否定する事で、地上の生活の中にその功德を感じ得る世界なのかと思う。

・「念仏して浄土に生まれて仏になる」という救い

描いても描いても売れない画家がいて、存命中は不遇に終わったとする。その後、作品が再評価されて有名になり、観る者に感動を与えることとなった。この場合、この画家は救われたと言えるだろうか。

迷ってばかりで「俺の人生は糞だった」と言い残した男がいて、「彼には迷惑ばかりかけられたけど…」と誰かが呟いた時、彼は救われただろうか。

生きる姿や生きた跡が、誰かを導いたとすれば、それは仏である。彼らが仏になろうと願ったのであれば、彼らは救われたと言える。たとえ出口を指すことが出来なくても、「私も迷っていた」の声が「共に歩む」と聞かれ、孤独の私の救いになる瞬間がある。出口のない暗い迷宮がその時、仏に照らされた光輝く世界だったと転換するだろう。「暗いからこそ仏に遇える」が浄土の功德なのかも知れない。やがて、「私も迷っていた」の声の主になろうと決意する、するとその歩みは西方へ向かうこととなる。十万億仏土の「私も迷っていた」の声に護られながら、仏を目指す確かな歩みが始まる。

・諸仏の護念

眼を開けば草木がそれぞれの仕方でのちを尽くしている。耳を澄ませば虫の音色が潔い。手を合わせて頭を下げれば誰かの足跡が見つかる。全てを諸仏と仰いで我執を離れてみれば、賑やかな世界に生まれていたのだった。

創作・釈尊と梵天の対話

― どうしてそんな姿で、しかも泣いておられるのですか？
― 世界の隅々の、ありのままの声を聞くのには、誰も気に留める者がいない、この姿で都合が良いのじゃ。泣くのは嬉しいからじゃ。やっと儂の声を聞く人間が出た。どれだけ待ちわびた事か。其方が厳しすぎる修行を始めた時、儂はハラハラしておった。死んでしまったら、儂はまたどれだけ待てばよいのだろうと…おかえりやす…それで、これからどうするつもりなのじゃ？

― 故郷の近くに小さな庵を建てて、自給自足の静かな暮らしを営もうかと。

― まだ若いのに隠居じゃねえか。儂の声を聞く者がこんな小さな男だったとは残念じゃ。本当に、その覚りを誰かに伝えようとは思わぬのか？

― この覚り「ありのままに観る」は、私の求めたものとは違います。病気が治る訳でも、寿命が延びる訳でも、暮らしが楽になる訳でもありません。「私の苦しみ」の、「苦」ではなく「私」をなくす法なのです。誰に見向きをされましよう。

― だが、その覚りの中で其方は儂を見つけてくれた。それは奇跡なのだが、喜んでくれぬのか…儂はそろそろ往かねばならぬ。そしたら其方は独りぼっちで寂しいぞ。友を伴った方がよいのではないか？

― でも、この覚りを言葉で顕すことはできません。伝える方法がないのです。

― 身体で表現すればよい。既に其方、うつつすらと輝きはじめておるぞ。儂には見える。見損なってもらっちゃ困る。世界は広い。遇うべき友は必ずある。法を説いて廻れば必ずわかる。

― 「一石を投じて反響を観る」、それが私の生まれた意味なのですか？

― すべてのいのちの生まれる意味じゃ。結果に囚われず、状況に応じて観え方が変わる。もっと身体の限りを尽くして、怯まず自由に覚りの世界を開拓せよ。

この時、大地に轟音がとどろき、釈尊の姿が眩しく輝いた。

そして一匹のハエが、釈尊にゆっくりと手を合わせた後、何処へか飛び去った。

〈『梵天勧請と初転法輪の意味するもの』佐久間秀範 智山学報、他より創作〉

少欲知足 もったいない



去年収穫して忘れてしまった孤独なオクラが、瘦せた土地で世話もされずに勝手に育って、大きな白い花を咲かせていました。
いのちのお手本、仏の姿。
もったいないと手を合わせます。

和顔愛語 ようこそ ようこそ

落語の主役は奇人と変人。
ようこそ嫌なお客様。
笑顔の法は無敵です。



アクリル板越しの 成田屋紫蝶師。
話しくくてスミマセン。
春季彼岸法会の一コマです。

恭敬三宝 おかげさま

今年のお盆（歓喜会）の一コマです。
沢山の方にご参集いただきビックリしました。
コロナ対策で予約制としたのですが、ご連絡は二組だけ、
やめちゃおうかと思っていました。
願成寺のお同行は自由だなあ。
風通し良く、密にならずに安全に勤めました。
皆様と共に務めた正信偈の音が、
お堂の外まで響いたそうです。
仲間（僧）を感じる、尊いご縁となりました。



行事予定 令和三年秋以降

九月二十日(月・祝) 秋季彼岸・永代経法会(戸田恵信師)

コロナ感染防止のため中止しました

十一月三日(水・祝) 本山納骨堂法会・団体参拝

コロナ感染防止のため中止しました

十二月四日(土) 報恩講

五日(日) 御開山聖人御恩に報いる法会です

お非時(昼食)中止の場合あり

土曜日 午後一時半から

日曜日 午前十時から

毎月一日 月例会

*十一月は二日に変更します 午後二時〜時間変更の場合等あります、寺までご確認下さい

本山納骨堂・納骨受付／仏間読経は予約制

本山もコロナ対策中です

参拝のご予定の方は本山または願成寺までご確認・ご相談下さい

納骨堂法会(十一月三、四日)

現在のところ、コロナ対策の為、無参拝にて実施予定とのこと

バスでの団体参拝は中止です。お参りの可否は未定のようにです

ご予約の方は、本山または願成寺までご確認・ご相談下さい

高田本山定時ガイドツアー

ガイド付きで山内を散策します(現在は中止中です)

開催 土日曜・祝日の午後一時半から約一時間

定員 先着二十名

会費 五百円



後記

○ 高校時代はポンコツの体操選手でした。競技者が少なかつた為、東三大会を自動的に通過して、県大会に出場。強豪校の選手に交じって演技をさせられ、恥ずかしくて、自分はダンゴ虫みたいだと感じました。

以来、体操競技は見ないようにしていたのですが、たまたまオリンピックで見てしまいました。人間とは思えない離れ技の数々。応援したけれど、同時に封印していたダンゴ虫が動き始めて苦しくなりました。それからずっと気分が晴れません。

○ お盆中は忙しくてまだ良かったのですが、その疲れも重なってか、時間に余裕ができた八月後半から気分はズッシリと重たくなりました。

○ コロナ自粛中の気晴らしはテレビです。でもこれがイケナイ。画面の中で、イケメンがドラマを演じ、ニュースショウの評論家は自信満々、芸人はいつも楽しそうです。それに比べて私はダンゴ虫だ。失敗したり、迷惑を掛けたり、封印しておきたかった記憶ばかりが蘇ります。

○ こんなダンゴ虫に明るい未来はない。鬱々と「もう、いつ死んでもよい」などの思いに沈みはじめた頃、切腹させられる夢を見ました。

○ 恐くて怖くて、大汗をかいて跳び起きた時、「夢で良かった」と、バクバクする自分の胸に手を当てて落ち着かせました。

○ さて、我が事ながら矛盾しています。死んでもよいなら、殺されてもよい筈です。何で嫌なのかと考えているうちに… 逆に、私がダンゴ虫を殺そうとしていたのだと気が付きました。

○ ダンゴ虫のどこが悪いのだ？ 一所懸命に生きているのだ。失敗と決めたのは誰だ。失敗を転じられないイカサマ野郎だ。迷惑を掛けたなら謝ればよい。娑婆はどうしたって迷惑を掛け合う世界だ。もともとダンゴ虫なんだから出来ることが少ない。仕方がないじゃん。

○ 開き直ったら少し笑顔になって、青空の下、散歩がしたくなりました。生活を整える三つの法語を心に留める為に、付記します。

◎ 少欲知足・和顔愛語・恭敬三宝 延塚知道著『親鸞の名著「教行信証」の世界』より